

横 浜 市 教 育 委 員 会
定例会会議録

- 1 日 時 令和6年7月5日（金）午前10時00分
- 2 場 所 市庁舎 18階共用会議室（みなと6・7）
- 3 出 席 者 下田教育長 中上委員 森委員 大塚委員 泉委員 綿引委員
- 4 欠 席 者 なし
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

教 育 委 員 会 定 例 会 議 事 日 程

令和6年7月5日（金）午前10時00分

- 1 会議録の承認
- 2 一般報告・その他報告事項
横浜市立図書館小学生・ティーンズ向け夏のイベント「図書館で夏休み」について
学習ダッシュボード横浜 St☆dy Navi の運用開始について
- 3 請願等審査
受理番号9 教科書採択に関する請願書
受理番号10 教科書採択に関する要望書
- 4 その他

[開会時刻：午前10時00分]

下田教育長

ただいまから、教育委員会定例会を開会いたします。

初めに、会議録の承認を行います。5月24日の会議録の署名者は泉委員と綿引委員です。会議録につきましては、既にお手元に送付してございますが、字句の訂正を除き、承認してよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

下田教育長

それでは、承認いたします。字句の訂正がございましたら、後ほど事務局までお伝えください。

なお、6月7日の教育委員会定例会の会議録につきましては、準備中のため、次回以降に承認することといたします。

次に、議事日程に従い、教育次長から一般報告を行います。

石川教育次長

【一般報告】

1 市会関係

教育次長の石川です。それでは、報告いたします。

まず、市会関係ですが、前回の教育委員会定例会から本日までの間についての報告はございません。

2 市教委関係

(1) 主な会議等

(2) 報告事項

○横浜市立図書館小学生・ティーンズ向け夏のイベント「図書館で夏休み」について

○学習ダッシュボード横浜St☆dy Naviの運用開始について

次に、教育委員会関係の主な会議等ですが、こちらも前回の教育委員会定例会から本日までの間についての報告はございません。

次に、報告事項として、この後、所管課から2点報告いたします。まず1点目ですが、「横浜市立図書館小学生・ティーンズ向け夏のイベント『図書館で夏休み』について」、2点目は、「学習ダッシュボード横浜St☆dy Naviの運用開始について」、報告いたします。

私からの報告は以上です。

下田教育長

報告が終了いたしました。御質問等ございますか。よろしいですか。

特に御意見がなければ、次に「横浜市立図書館小学生・ティーンズ向け夏のイベント『図書館で夏休み』について」、所管課から御報告いたします。

吉川中央図書館長

おはようございます。中央図書館長の吉川でございます。委員の皆様方におかれましてはいつも大変お世話になっております。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

たします。本日は、私たち横浜市立図書館から、この夏に行く小学生、それから中学生・高校生世代のティーンズ向けの事業といたしまして、「図書館で夏休み」と題しましてこの夏休み期間中の取組を行います。今回は横浜市立図書館と横浜市立大学学術情報センターのコラボレーションで、小学生や中学生・高校生世代の夏休みを応援しようとするものでございます。それでは、詳細につきましては中央図書館企画運営課長の小田川から御説明させていただきます。

小田川中央図書館企画運営課長

中央図書館企画運営課長の小田川でございます。よろしくお願ひいたします。では、お手元の資料を御覧いただけますでしょうか。「図書館で夏休み」ということで、ただいま中央図書館長から申し上げましたとおり、小学生、そして中学・高校生世代向けの事業を行ってまいります。年間を通じまして春、夏、秋と、こういったキャンペーンを図書館では行っているところでございます。

題字の下の囲みのところを御覧いただけますでしょうか。夏休みということもございますので、自由研究などの調べものにも役立つようなものも含めまして、様々なイベント、そして展示を実施していきたいと思っております。また、夏休み期間の居場所といたしまして、閲覧席も拡大してまいります。ふだん会議室として使っているところ、あるいはちょっとした空きスペースなどに閲覧席を臨時で設けまして、多くの小学生、ティーンズの皆様にお越しいただければと考えております。また、こちらの広報は、先ほど中央図書館長から申し上げましたとおり、横浜市立大学とも連携ということで、横浜市立大学学術情報センターの夏休みの特別開放についても併せて御案内をしているところでございます。

では、その下を御覧いただけますでしょうか。「1 横浜市立図書館の事業について」の「(1) 概要」でございます。令和6年7月17日から令和6年8月31日まで、市立図書館18館で行ってまいります。下に写真を掲載しておりますが、体験型イベント、本の展示、先ほど申し上げました閲覧席の拡大などを行ってまいります。裏面にももう少し写真などを掲載しているところでございます。また、事例も少し掲載をしておりますので、後ほど御覧いただければと思います。

そして、その下の2番目でございます。「2 横浜市立大学図書館の夏季特別開放」ということで、こちらは高校生限定でございますが、金沢八景キャンパスの学術情報センター、あるいは福浦キャンパスの医学情報センターにおきまして、以前から自習スペースとして高校生に開放していたところでございますが、今回実施する対象者が合致するというので、併せて御案内をするものでございます。学術情報センターにつきましては令和6年8月1日から令和6年9月20日まで、医学情報センターについては令和6年8月30日までということで実施しているものでございます。資料の御説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

下田教育長

説明が終了いたしました。御質問等をお願いいたします。

大塚委員

子どもたちに春、夏、秋と様々なイベントを組んでいただくことで、これがだんだん定着していったら楽しみにしていただく機会が増えてくるのは、子どもたちにとってもすごく大事なことでと思います。私から確認させていただきたいのは、こういった図書館での夏休みのイベント等で、横浜市図書館ビジョンを作るときに、たしか金沢区の中学校数校の図書委員会の子どもたちにいろいろな御協力を頂いたという御報告を頂いています。そういった図書委員会の子どもたちとの出会いを生かしたような何か取組というのが、中学生や高校生に対してもそういったものを行っていらっしゃるようでしたら教えていただきたいですし、ぜひ

それを発展の形で行っていただきたいと思いますのですが、少し教えていただけますか。

小田川中央図書館企画運営課長

ありがとうございます。今回、図書委員会に関わっていただく催し物といたしまして、2点御紹介させていただきたいと思います。まず、泉図書館で、いずみ野中学校の図書委員会の皆様に、夏休みの特別おはなし会を実施していただくという企画がございます。こちらは令和6年7月26日に実施予定でございます。また、高校生の図書委員会の皆さんでございますが、中央図書館の1階に空いている書棚がございます、こちらに横浜市立高校の皆さんのお勧め本を中央図書館で展示していただくということで、現在調整しているところでございます。こちらは高等学校の図書委員会の生徒に展示をしていただくということで、8月上旬からできるように考えて準備しております。中央図書館の地下1階は、いわゆる書架がたくさんあって閲覧席があってというところではなく、グループ学習などができるようなところなんです。生徒などにも、最近、大分定着してきて御利用いただいているところでございますので、そういった際に足をお運びいただいたときに、自分たちと年代の近い方たちがお勧めするような本を目にする機会にもなるのかなということで考えたものでございます。御説明は以上でございます。

大塚委員

ありがとうございます。18区の中で2館がそういうような形でお取り組みいただいているというのはすごく大事なことだろうと思います。ぜひこの取組が各区に広がって行って、図書館の近くの学校の子どもたちがそこでティーンズの学びの場を自ら作っていくような、そういう取組が今後広がってほしいと思います。

また、この「図書館で夏休み」というこの情報が、本の好きな子は自ら情報を取りに行くと思うのですが、この情報に偶然出会えるということは非常に重要だと思います。そういった部分で広報というのは非常に重要だと思いますが、どういった点の工夫があるか、これを最後にしたいと思いますが、教えてください。

小田川中央図書館企画運営課長

ありがとうございます。やはり対象の方になるべく届くようにということで、学校にも御協力をお願いいたしまして広報しているところでございます。また、様々な広報の手段について引き続き検討して、なるべく広く知っていただくように考えてまいりたいと思います。ありがとうございます。

大塚委員

ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

下田教育長

ほかにございますか。

森委員

ありがとうございます。横浜市立大学の図書館との連携があるということですが、これはすごく良いなと思います。まちを歩いていますと中学生・高校生が勉強する場所を探していて、カフェや図書館も全部の席が埋まっていて立って待っているような姿もよく見ますので、このように大学を含めて開放していただいて勉強のスペースを頂けるというのは非常にありがたいと思います。もちろん課題も出てくるかもしれませんが、実際に利用した方、高校生の声なども頂きながら、更に広がっていくように、じゃあうちの大学もなど、大学だけではなく、うちの施設も夏休み期間開放しても良いよというような広がりになるように、若しくは夏休み以外の土日、通常の週末であったり、ニーズが高いところでもそういった使い方ができるような施設の連携、広がりを目指していただきたいと思います。

した。それが1点です。

2点目につきましては、前半の話ですが、夏休みのいろいろなイベントは非常に良いと思います。ただ、更に申し上げるとすれば、子どもたちがお客様になるのではなく、もっと主体的に企画する。展示を見るのではなく、どちらかというと展示を作る側になってみるなど、そういったことまで取り組めるとなると良いなと思いました。

あとは、これまでの様々な御報告をお聞きする中で、図書館の皆さんたちがほかの施設との連携で、ほかの施設に図書を置いて貸出しができるようなことを始めている館もあるとお聞きしたと思います。今回このように拝見していますと、地区センターや地域ケアプラザ、地域子育て支援拠点など、これは学齢期より前になりますが、いろいろな施設で様々なイベントを夏休みに開催しています。ですから、各館で同様のイベントを更に行うというよりは、そういった様々な施設でイベントを開催しているときに、こういう図書もあるよとそこに置かせてもらい、子どもたちが体験して、面白いものに出会って、もっと知りたいなと思ったときに、すぐそこにその入り口があるというような設計を皆さんと一緒に考えるというのもより良いと思いますので、そういったことを、もう行っていっちゃるかもしれませんが、更に御検討いただければと思いました。

小田川中央図書館企画運営課長

ありがとうございます。1点目に頂きました居場所について、更に広がっていくようにということで、今回は横浜市立大学のみでございますが、ほかの大学にも声をかけて広げていけるかどうか検討してまいりたいと思います。ありがとうございます。

また、2点目の作る側というところでございますが、今回の企画の中でもお子さん向けの行事につきまして、中学生・高校生と一緒に行っていくような企画を何館かで行う予定がございます。引き続き拡大できるように取り組んでまいりたいと思います。

あと、3点目のイベントなど、本に触れる機会の拡大でございますが、森委員のおっしゃるとおり、図書館だけではなかなか読書機会の拡大、本に触れる機会の拡大というのは難しい部分がありますので、様々な市民利用施設、また、市民の皆様御自身なども含めて、様々な機会を増やしていければと考えております。どうもありがとうございます。

下田教育長

ほかにございますか。

綿引委員

綿引でございます。大変素晴らしい企画だなと拝聴させていただきました。やはり図書館は、生涯学習、地域コミュニティの基盤としての役割がますます期待されていくという観点で、この活動の重要性が増していると思います。希望と言いますか検討のお願いとしては、これから増えてくる外国人の方々とそのお子さん、障害のあるお子さんたちの参加を促すような検討をぜひ進めていただきたいと思いますというのが1点目です。

そのような意味から、図書館の縦のラインの企画、これだけ素晴らしい企画なので、その企画を教育委員会事務局全体で協働するという観点で、例えば今後、国際交流センターと合同の企画をするなど、何かそういったイベントを将来検討して、裾野の広い活動にしていいただきたいと願うところです。コメントということで理解していただければと思います。以上です。

吉川中央図書館長	綿引委員、ありがとうございます。今、綿引委員におっしゃっていただいたように、外国籍や障害のある方、利用者の方にも広く広げるように取り組んでいきたいと思います。また、今回のイベントの中でも、実は旭図書館では「アジアどこどこおはなし会」ということで、今回は韓国語の絵本の読み聞かせなども行うことになっております。地域館、特に外国籍の方が多い鶴見図書館や中図書館、そういったところでも類似のイベント等を企画しております。こうしたものを通じてもっと裾野を広げたいと思っておりますし、コロナ禍も一定程度落ち着きましたので、おっしゃっていただいたように国際交流ラウンジなど、これからますますそういったところとの連携を強化してまいりたいと思います。本当にありがとうございます。
下田教育長	ほかにございますか。 ほかに御質問等がなければ、次に「学習ダッシュボード横浜St☆dy Naviの運用開始について」、所管課から御報告いたします。
山本学校教育企画部長	学校教育企画部長の山本でございます。学習ダッシュボード横浜St☆dy Naviの運用を開始いたしましたので、教育課程推進室長より御説明申し上げます。
丹羽教育課程推進室長	教育課程推進室長の丹羽でございます。学習ダッシュボード「横浜St☆dy Navi」が、6月末より横浜市内の小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校の各学校において順次稼働を始めましたので、記者発表資料に基づきまして御説明させていただきます。この学習ダッシュボード「横浜St☆dy Navi」は、26万人の児童生徒のデータを蓄積しまして、この蓄積量は全国最大規模になりますが、大学や企業とも連携して、子どもたち一人ひとりの状況に応じた学びを実現していきたい、そういったシステムでございます。 この学習ダッシュボードの導入によりまして可能になることについて御説明させていただきます。この学習ダッシュボード内には、横浜市学力・学習状況調査若しくは授業の振り返りアンケートなどの機能がございまして、横浜市学力・学習状況調査の結果と授業アンケートのデータを掛け合わせることで、学力や子どもの意欲との関係が分かって、それに基づいた授業改善を図ることが可能となります。また、横浜市学力・学習状況調査の結果と健康観察のデータを掛け合わせることで、学力と健康の関係が分かって、子どもに対しての声かけが具体化する、そういったことも期待されております。 また、毎日の健康観察についての機能もございまして、これにつきましては、今までは養護教諭が各教室を回って記録用紙を集め、職員室に戻って集約し、一覧表にまとめて報告するという作業がございましたが、横浜St☆dy Naviの健康観察の機能を活用することによりまして、職員室若しくは保健室にしながらにして、学校全体の状況、子どもたちの状況を即時的に確認することができるようになります。6月末から現在までの短い運用期間の間でも、各学校からは、これについては大きな時間短縮につながっているという声も頂いております。 また、授業の振り返りアンケートにつきましては、子どもたちの学習の理解度をしっかりと可視化することができますので、つまづきを覚えているような子どもについては、今までよりも効果的に個別の支援を行うことができるようになっております。 このように、今回の学習ダッシュボードの構築によりまして、横浜市の教育が大きく転換していく、若しくは進んでいく、そういったシステムを構築させていただいたと考えておりますが、これから各学校の教職員からもしっかりと声を集

めまして、今の学習ダッシュボード「横浜St☆dy Navi」の在り方から、更に日々改善を図っていきたいと思っておりますので、好事例の発信若しくは共有を各学校とも図りながら、今後もこの事業を進めさせていただきたいと思っております。御説明・御報告は以上でございます。

下田教育長

それでは、説明が終了いたしましたので、御質問をお願いいたします。

中上委員

今の御説明の中で、最近の時代の要請と言いますか、エビデンス、要するに政策にどう結びつけていくかということで、それは行政だけではなく、大学・企業といろいろ分析した上でより良い教育政策に活用していくという狙いや、一人ひとりの状況に応じた学びに結びつけたいという狙いはよく理解できます。また、下に記載の、「ダッシュボードの導入によってできること」の中にいくつかあるのですが、その一つに「子どもの変化を多くの目でキャッチできます」とあります。これは今、不登校やいじめなどのSOSにいかにか気付けるかという、教職員との連携、養護教諭との連携、そういうことにもうまく活用できればと期待しているところです。

ただ、リスク管理の視点で一つ質問なのですが、多分これは便利なものばかりではなくて、特に保護者の方の不安と言いますか心配の一つに、個人のデータが外に漏れてしまうことがあるかもしれません。今、社会の中で、企業や行政の中でもデータの漏れの悩みがあるわけです。その辺りのことはしっかり取り組んでいかないと、せっかくの良い取組がみんなに不安を与えてしまうと良くないので、その辺りのセキュリティーの基本的な考え方などがありましたら少し教えていただきたいです。

丹羽教育課程
推進室長

各学校のセキュリティーのこと、個人情報のことですが、現在、学校の中では非常に安心・安全な状況でインターネットにつながることができますので、その安心・安全なインターネット環境を活用したシステムとお考えいただければ幸いです。今後につきましては、個人情報のこういった情報をどこまで集めるのかということをしっかりと明確にしていきながら、その情報の必要な目的を明確にしながら、しっかりとデータの利活用をさせていただきたいと考えております。

中上委員

分かりました。いずれにしても、学校現場の教職員も信頼して取り組めるように、教職員の運用管理にも安全性と言いますか、その辺りも配慮していただいて、セキュリティーというのはしっかり対応していただきたいと思います。以上です。

下田教育長

ほかにございますか。

綿引委員

ありがとうございます。26万人の教育ビッグデータを蓄積して活用していくというのは、我が国の中でも極めて画期的なことだと思います。ですから、ぜひこれが正しく運用されて、より効率的・効果的に活用されることを望みたいと思います。そういう観点で、デジタル的な側面とアナログ的な側面で二つ、お願い事と言いますか視点を確認させていただきたいのですが、一つは、デジタル的な側面で言うと、データサイエンスチーム、データサイエンスラボを作っていくというのは極めて画期的だと思います。その意味で、その中に子どもたちのモーションチェックができるという機能もお持ちだということから、ぜひ医療関係の方々

もメンバーに入れて、医療的な側面からもデータ解析を進めていただきたいと思います。何が横浜市の教育で課題なのかということ、医療的側面からも見ていただく必要があるのではないかとというのが一つです。それから、今年の冬からと私は理解しておりますが、次期学習指導要領の改訂論議をよく見据えていただいて、データサイエンスチームのアルゴリズムの作り方やデータの取り方というのを、せっかくの機会が集まってくるので、そういった視点も含めてサイエンスチームの確立を考えていただいて、次期横浜教育ビジョンの策定に、それこそエビデンスベースでポリシー・メイキングしていただくということを進めていただけるようお願いしたいというのが一つ目でございます。

二つ目はアナログの観点で、子どもたちのコメントの出し方など、この端末を使ったサインの出し方というのは、一人ひとりが相当いろいろな意思表示の仕方をしてくると思います。その意味では、やはり学校現場の教職員の方々の五感や対話など、子どもたちのシグナルを受け止める姿勢など、そういったことを大切に、両方並行して進めるということをお願いしたいと思います。その意味で、教育委員会事務局の中央集権型のシステムではなくて、先ほどの御説明にもありましたように教員の声も聞いていただくということですから心配しておりませんが、学校の主体性を大切にして、作ったは良いけれども使われないシステムにならないように、教育委員会事務局の皆さんにぜひサポートしていただきたいと思います。よろしくお願いします。楽しみにしております。

丹羽教育課程
推進室長

ありがとうございました。医療的な側面では専門的な知見、データサイエンスチームに参加していただくときにもそういった側面や、また、学習指導要領に関しましては、データサイエンスチームの中に教職員をしっかり入れていくことによって、日々の授業を作っている教職員の声をしっかりデータ化していく、そういった客観的なデータに用いていくというようなことも今後取り入れていきたいと考えております。また、アナログ的なことでも頂きましたが、子どものコメント、対話ですね。選択肢だけではなくて、子どもが発している言葉の分析も、今後は教職員の知見も生かしながらしっかり進めてまいりたいと思っております。ありがとうございます。

下田教育長

ほかにございますか。

泉委員

これまで学校現場に散在していた様々な種類の異なる情報が一元化されて分析可能になるという点で、大変素晴らしいものだと思います。その点で私からは二つ、意見を言わせていただきたいと思います。まず、私自身が今行っている調査研究で、I o Tペーパーと言いまして、電子ペーパーですね、それと電子ペンを使って子どもが描いた絵と、子どもの心理検査の両方の関連性を分析するという研究をしているのですが、大人の予想どおりの関係性がなかなか抽出されにくいなという印象を持っています。よく分析していくと、子どもの場合かどうか分からないのですが、その一時点で出現する結果そのものよりも、経年変化の様子が非常に重要らしいということが今分かってきています。その点でも、今回取り組まれる内容としましては、経年変化、蓄積可能な縦断的なデータの取り方をされるということで、得られるものが大変大きいのではないかと期待しております。

そういう中で、私自身もどうしたら良いだろうととても悩んでいる点でお考えがもしあったら教えていただきたいのですが、得られにくい対象からのデータがあると思います。例えば私が今思っているのは、不登校の児童生徒の場合は答え

てもらえないということがあります。これは始まったばかりの取組ですので、今後そういったことを考えられていくのだらうと思いますが、もし御見解があったら教えていただきたいです。例えば御自宅での使用を可能にするですとか、得られにくい対象からのデータ収集をどのように可能にしていくのか、もしお考えがあったら教えてください。

あともう1点は、先ほど綿引委員がおっしゃったことと少し重なるかと思いますが、学校現場で新たなツールを導入するときによくあることかと思うのですが、新しく導入するツールとこれまで使っていたツールの関係性ですね。例えば今回で言いますと、学習ダッシュボードに出てくる結果と教職員の見取りの関係になるかと思いますが、これがそれぞれ一致するときは妥当性が増してとても良いことだと誰もが見て思います。一方で、結果にかい離がある場合、どちらが正しいかという議論にならずに、その差があることがすごく重要な情報だというような観点に立っていただきたいと思いました。意外に陥りがちなのが、新しいツールばかりに頼ってしまって従来のものを捨て去る、私たちの感覚はいらぬのよねみたいになってしまう。それが一番避けていただきたいと思ったことなのです。ですので、今恐らく、この学習ダッシュボードを教職員が使えるように、いろいろな研修や支援がなされていると思いますが、それだけではなく、教職員の勘や見取りというのが併せてとても大事ですよといった教職員への意識付け、データに乗っ取られないような、そんな意識付けのようなこともしていただけているのか質問させていただきます。以上です。

丹羽教育課程
推進室長

ありがとうございます。蓄積されたデータの活用について、今後、学校ではないところでも、例えば自宅でもという御質問だったと思いますが、これはセキュリティ対策をしっかりと講じまして、子どもたちの居場所であるところから横浜St☆dy Naviの活用ができるように早急に進めてまいりたいと思っております。

また、データに基づいた、例えば教職員の知見とのずれというようなところは、教職員が単独で考えていくのではなく、複数の教職員がしっかりと議論や対話を重ねながら、一人の子ども像を立体的に映し出せるように、学校での対話若しくは教育委員会事務局との対話をしっかりと進めていきたいと考えております。

泉委員

ありがとうございます。まさに始まったばかりでこれから構築されていくのだと思いますが、データ分析やデータを使うのはサイエンスチームだけではなくて、教職員も主体的に使っていけるような仕組みになっていくと良いなと思いました。以上です。

下田教育長

ほかにございますか。

森委員

御報告ありがとうございます。これだけの規模の挑戦はなかなかないと思いますし、まさに挑戦ということがキーワードだと思いますが、まず行ってみていろいろな課題が出てくると思います。「3 スパイラル化」と書いてありますが、一つ一つ何が課題だったのかということクリアしながら、ぜひ進めていただきたいと思います。この御報告をお聞きしながら思ったところとしては、どんなデータを集めるのかということと、どういう状態で情報をインプットしているのかということ、どういうフィードバックをするのかという、ここが大きな三つのポイントなのだろうなと思いながらお聞きしました。

どういう情報か見ていきますと、まさにこの学習ダッシュボードの画面のキャプチャーがありますが、例えばこれまでの議論を振り返っていきますと、個別最

適な学びにどうつながっていくのか、協働的な学びにどうつながっていくのか、子どもたちのウェルビーイングのことなど、あとはやはり探究ですよ、探究型の学びにどうつながっていくかというのが一つ、今後押さえていくポイントなのだろうなと思いながら見ておりました。ウェルビーイングというところでは、子どもたちの感情という状況を拾っていくという話の一つ。個別最適な学びというところでは、子どもたちの学力や学習意欲というところが今、画面上は見えています。ただ、例えば協働的となったときにどういうデータを集めていくののだろうか、探究となると様々な、どの要素をどのように情報を入れていくと良いのだろうかということはまさにこれからだと思いますが、ただ、今の学力の状況はこうで、心の状況はこうでという、それだけではない様々なことを今、教育を通して目指していることがあると思いますので、全部は難しいと思いますが、どう精選してここになったのかという経緯もお聞きできればと思いますし、今後はぜひ、先ほど言ったようなポイントも調整していつていただきたいと思います。

情報をどう入力するかですが、例えば子どもたちの本日の心の状況でしたか、今日は調子が良いとか、少し悪いとか、とても良いというのを入れる場面は、どんな時間帯の、周りがどういう状況で、どのぐらい時間をかけて行っているかということがとても大事だと思っています。加えて、その子がそれをただ選ぶのが作業になっていないか。自分の感情はこれかなというように、感情と自分の選んでいるものがちゃんとつながりやすいような支援がそこないと、下手すると朝到着してただ押して終わるという作業になってしまう。それを基にデータ分析すると、良いデータがそろっていないと分析できませんが、結局意味のないデータになってしまうと思いますので、そのデータを入力している場面、入力している状況や入力できるような支援をこの先よく見て、若しくはブラッシュアップできるような支援をしていただきたいと思います。

三つ目はどうフィードバックするかなのですが、この前、とある教員にお聞きしましたが、例えば子どもの学習に向かう意欲がぐっと上がってきましたというタイミングから実際の学力の伸びにつながるまでは時差があるという話をお聞きしました。例えばそれは2年、3年時差があるかもしれない。でも、この学習ダッシュボードを見ていくと、学力だけが突出して、今のあなたの学習状況はこんな感じで算数が少し苦手ですねというようなことが可視化されることによってすぐ目立ってきてしまう部分があると思うのですが、ただそこだけを見るのではなくて、学習意欲があるとはいえども、適切にその情報の二つの状態を見てどういう声かけをするか。その状況のフィードバックの仕方というのは、今の段階では、教職員がデータを見取ってフィードバックするというのはもしかしたらばらつきがあるかもしれないので、データが出たときにどうフィードバックするかをどう支援しようと思っていらっしゃるか、今思っていることがあればぜひお聞きしたいと思いました。

丹羽教育課程
推進室長

ありがとうございます。まず、インプットに関してどういった情報がということですが、協働的な部分で言いますと、例えば今行っていることとしましては、動画等で授業をしっかりと記録しまして、子どもたちの動きや、若しくは子どもや教職員の発話量、誰と誰が話している、そういったことを、ただそれだけだと素のデータになってしまいますので、そこに教職員の意図的な発問や若しくは子どもたちの話し合っている内容など、そういったものも合わせてインプットしてデータ化していくと。そういった予定でございます。

また、2点目の健康観察の場面でございますが、毎日というよりも毎朝の健康観察ということで、確かに機械的に入力をするのですが、入力した子どもたちの

状況と教職員が従来行っていた健康観察とをしっかりと合わせまして、子どもたちの入力状況と教職員の見取りというものを合わせて健康観察のデータとしていくというシステムでございます。

最後、フィードバックの仕方でございますが、伸びるまでに時差がある、そういったこともございますが、学力の伸びというもの、例えば社会情動的コンピテンシーのような非認知能力ともしっかりと掛け合わせることで、従来の可視化された単なる学力だけではなくて、従来は可視化できなかったような能力につきましても併せて行っていく。そしてそこに、先ほど来申し上げていますように、しっかりと教職員の議論や対話を重ねていって、教職員や子どもたちが、自分たちが活用できる、欲しいと思える情報をしっかりとフィードバックしていきたいと考えております。

森委員

ありがとうございます。確かにこれまで研究されてきたことがここにつながってくるのだなということが今の御説明でよく分かりましたので、今後楽しみにしています。加えて、子どもたちが一人ひとり抱えやすい、先生も抱えやすいですが、これによって少しでもSOSが発信しやすくなることにつながったら良いなということが一つお願いです。

とある子が言っていたことなのですが、あなたが今困っていることはありませんかというようなアンケートが紙で配られて、前の子に渡していくと見られるのではないかという不安や、例えば先生のことで困っている場合、先生の目を通さなければ届かないとなると、そこもすごく嫌だったという話を以前、大分前ですが聞いたことがあります。今は多分、既に様々な方法のトライアルをしていると思いますが、このように自分が困っているということを言いやすい環境がここにあって、場合によっては、それが直接、養護教諭の方だけに共有されるなど、自分の発信しているSOSの共有してほしい範囲を選べるというようなことが今後の機能としてできていくと、SOSの発信のしやすさが高まっていくのではないかと思います。

あと、学び直しにつながるという部分で、様々な教職員の方々がいる中で、自分の教え方に誇りを持っている先生もたくさんいらっしゃると思いますが、客観的なデータも見つつ、例えばこういう学び方、学びの意欲が高まっている授業というのはこういうことが影響しているということがデータを通して見えて、それがみんなの気付きになっていくと良いなと思いますので、研修にもそこがどうフィードバックされていくかというのも今後楽しみにしています。よろしくお願いします。

大塚委員

「26万人のビッグデータの活用によって、学校教育が変わります！」この「変わります」の実感を誰が感じるか。それは、最終的に子ども自身がこのデータ活用によって自分自身を見つめることができたり、自分の強みや弱み、そこから未来の自分に希望を持つなど、そういった子どもの姿から学校の教職員が変わっていくということを実感していく。そのようなところに行くまでの過程として、今始まったばかりの時点にいるということがすごく重要だなと思います。この今始まったばかりの時点が学校がどう迎えているか。夢と希望が託される素晴らしい取組ですし、学習ダッシュボードのポイントの1、2、3など、どれも未来の子どもたちを見据えた、今をいかに大事にしていこうということがすごく伝わってきます。

ただ、学校の現状はどうかというところでいきますと、今年度「すぐーる」が全校で取り組まれることになりました。現在、全校が「すぐーる」に取り組めて

いるかと言いますと、夏季休業を経た後、夏にともかく「すぐーる」を全員習得して、しっかり「すぐーる」を9月以降に実現していこうという学校もあるように伺っています。それからもう1点は、いじめに関する調査に関して報告書を全ての案件でしっかりと出していく。報告書を出す目的というのは、一つ一つに対してアセスメントをしっかりと行う。そういった部分で、例年と変わってきた「すぐーる」やいじめに対する報告書の部分、そこに加えて今度は学習ダッシュボードが入ってきましたということで、ともかくどれもが子どもにとって大事なことだと全ての学校が理解されていて、それに向かって必死で取り組んでいらっしゃるということが切々と伝わってきていますが、取り組みばすぐそれがうまく稼働するかというのは、非常に厳しい現状だと思います。学校を構成している年齢構成や、教職員おのおのの専門性といった部分はバランス良くというわけにはなかなかいきませんので、そういった意味での取組の苦しさというのはあると思います。

特に今回、子どもの心と体のところで今いろいろな委員からお話があったが、例えば備考欄があります。子どもは五つの表情から自分の今を選択します。それだけで終わってしまう子はあっという間に終わります。でも、そこで備考欄に記入したいと思う子は多少の時間が必要になって、ほかの子より遅れてしまいます。その差異を、クラスの周りの子はどう見ているかなど、今まさに森委員がおっしゃったような、どういう状況の中で入力を行うかということ、それをどう指導するか。

今、一番厳しい状況にあると感じるのは、初任の方々です。特に初任の方々は、学校現場を4月、5月、6月と3か月イメージしていたものと、目の前に自分が担任をする子どもたちがいる現状は大きく違っていると思います。自分が想像していた喜びも更に大きいと思います。でも、その苦労というものは、日々の授業をどうするかと考えつつ、「すぐーる」が入り、報告書が入り、報告書はほとんどの学校で専任教諭が責任を持って動かしているとは伺っていますが、それに関する自分の関わりがあり、なおかつ、今度は学習ダッシュボードが入ってくると、学習ダッシュボードは11時までにきちんと把握しなくてはいけない。そうすると、朝8時半から授業が始まり、その中で同時進行で11時までに心と体の健康チェックを行い、その時間の中で、あれ？この子先週よりちょっと違ってきているぞというとその子の過去のデータを見ることになり、そして、これは今日声かけが必要なのだろうか、今日は様子見で良いのだろうかの一つ一つの判断を迫られていくことを考えますと、校内で初任の方をどう支援していくかということは、やはり学校の重要事項の一つだと思います。安心して働いていただくという環境をいかに学校が作っていくか。この新しい取組は、実は全ての教職員が初めてなので、自分が習得するまでの時間は、皆さんが誰かを支援するというのがなかなか厳しい現状にもあります。

その意味で、今、非常にマイナスの部分のお話をお伝えしていますが、それでも学校は、子どもにとって大事なことはきちんと行っていて、どういう成果が得られるかというところを非常に大事に進めていらっしゃると思いますので、今たくさんお話が出ていますが、いかにこれをフィードバックするか。そして、今後を考えて、何を発展的に解消して、何を重要にしていくかという、そのバランスを教育委員会事務局がうまく取っていくことで、学校現場がより安心した取組になっていくのではないかと思います。ですから、先ほどからお話の中でしっかり現場の声を集めるということを繰り返し言っていますので、そこを重要視して、どの点をフィードバックするかというところを行っていただきたいと思います。要望です。

山本学校教育
企画部長

ありがとうございます。まず、私たちも今回学習ダッシュボードを導入して、第一に考えているのは、これでデータができたので、それで全てが完結するというのではなくて、今日皆さんから御指摘があったように、今までの教職員の経験や勘など、対面でしっかりと子どもたちの表情を見て判断するということが非常に大事であると思います。そこの今までの経験に加えてこのデータを掛け合わせることで、今までの教職員の仕事のサポートになるようにしていきたいというのが最大の願いでありますので、そういったことを学校現場にもしっかりと伝えた上で、こういったものを進めていきたいと思っています。先ほど泉委員から健康観察の話がありましたが、先生の見立てとデータの差ということがまさに私たちも大事だと思っていますので、そういったところをどのように埋めていくのか。また、最終的にデータを見ながら判断していくのは教職員だと思っていますので、そういったところの知見を私たちもしっかりと丁寧に意見を聞きながら、とにかくこれは一回作って終わりではなくてアップデートしながら、学校現場で使いやすい、またはこれが必要だと言われるようなものになるように、しっかりと改良を加えていきたいと考えております。まずはスタートしたところですが、これからもしっかりと現場の意見を聞いて改良しながら、使いやすいものにしていきたいと思っていますので、またいろいろ途中でも報告させていただきたいと思います。

下田教育長

ほかに御意見等はございますか。よろしいですか。

それでは、御意見がなければ、次に議事日程に従いまして、請願等審査に移ります。5月21日付で受け付け、各委員に配付しております受理番号9について、審査を行います。事務局から説明をお願いします。

山本学校教育
企画部長

引き続き学校教育企画部長の山本でございます。受理番号9の請願書につきまして、考え方を所管課長より御説明申し上げます。

高橋小中学校
企画課長

小中学校企画課長の高橋です。受理番号9の請願書について御説明いたします。請願者は、教育を良くする神奈川県民の会です。請願項目は二つございます。（1）中学校歴史・公民教科書の採択にあたっては、教育基本法改正の趣旨及び学習指導要領の目標・内容を観点として最もふさわしい教科書を採択してください。（2）中学校歴史・公民教科書の採択にあたっては、以下の記述内容に留意して採択してください。①1937年のいわゆる「南京事件」に関する記述について。②「慰安婦」に関する記述について。③「LGBT」に関する記述について。

続いて、考え方について御説明いたします。

請願項目（1）と（2）を取りまとめて御説明させていただきます。市立学校で使用する教科書は、横浜が目指す子どもの姿を実現するために、文部科学大臣の検定を経た教科書の中から、関係法令や横浜市教科書採択の基本方針等に基づいて採択しています。また、各教科の専門的知識を有し、教育現場を熟知している現職の教員である教科書調査員による調査研究の結果と、子どもの学習実態を踏まえた横浜市教科書取扱審議会の答申を尊重しつつ、横浜市教育委員会の判断と責任において、適正・公正に採択を行っております。なお、令和6年度横浜市教科書採択の基本方針は、関係法令や文部科学省通知等を踏まえ、横浜教育ビジョン2030や、横浜市立学校カリキュラム・マネジメント要領等に基づき策定しました。

なお、本件につきましては、請願者から意見陳述の要望が出されておりますので、それに対する考え方を御説明させていただきます。文部科学省通知「教科書採択における公正確保の徹底等について」の中でも「教科書採択については、教科書発行者に限らず、外部からのあらゆる働きかけに左右されることなく、静ひつな環境を確保し、採択権者の判断と責任において公正かつ適正に行われるように努めること」とあることから、意見陳述をお受けすることは、教科書採択においてはなじまないと、事務局としては考えます。説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

下田教育長

説明が終了いたしました。まずは意見陳述について御意見をお願いします。

中上委員

今の当局の考え方については特に異議ありません。賛成です。

下田教育長

ほかにございますか。

ほかに御意見がなければ、受理番号9について、事務局から説明のあったとおり、意見陳述を認めないということでよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

下田教育長

それでは、意見陳述を認めないことといたします。引き続き事務局から説明がありました請願に対する考え方について、御意見等はございますか。よろしいですか。

御意見がなければ、受理番号9については、事務局の考え方に沿った回答でよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

下田教育長

それでは、承認させていただきます。回答文につきましては、承認いただいた考え方に沿って回答させていただきます。

次に、5月27日付で受け付けを行いました、各委員に配付しております受理番号10について審査を行います。事務局から説明をお願いいたします。

山本学校教育
企画部長

続きまして、受理番号10の要望書につきまして、考え方を小中学校企画課長より御説明申し上げます。

高橋小中学校
企画課長

引き続き小中学校企画課長の高橋です。受理番号10の要望書について御説明いたします。要望者は、新日本婦人の会横浜18支部連絡会です。要望項目は三つございます。

1、展示会の場所や展示期間の拡大し、市民が意見を寄せられるようにすること。教科書採択に関する会議の日程を市民に広く明らかにすること。

1、教科書採択は公正に行われるよう、公開・傍聴を認め、市民の声を採択の資料に入れること。また、傍聴スペースを広くとる、第二会場を設けるなど、希望者全員が傍聴できるようにすること。オンライン会議の場合は、動画配信をおこなうこと。

1、日本国憲法、子どもの権利条約の精神にもとづき、子どもたちにとって、より理解しやすく、より楽しく学習できる教科書を採択すること。

続いて、考え方について御説明いたします。要望項目の三点目についてでござ

います。市立学校で使用する教科書は、横浜が目指す子どもの姿を実現するために、文部科学大臣の検定を経た教科書の中から、関係法令や横浜市教科書採択の基本方針等に基づいて採択をしております。各教科の専門的知識を有し、教育現場を熟知している現職の教員である教科書調査員による調査研究の結果と、子どもの学習実態を踏まえた横浜市教科書取扱審議会の答申を尊重しつつ、横浜市教育委員会の判断と責任において適正・公正に採択を行っております。令和6年度横浜市教科書採択の基本方針は、関係法令や文部科学省通知等を踏まえ、横浜教育ビジョン2030や、横浜市立学校カリキュラム・マネジメント要領等に基づき策定いたしました。

なお、それ以外の要望項目につきましては、教育長委任又は専決で回答いたします。説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

下田教育長

説明が終了いたしました。御質問等ございますか。よろしいですか。

御意見がなければ、受理番号10については、事務局の考え方に沿った回答でよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

下田教育長

それでは、承認させていただきます。回答文につきましては、承認いただいた考え方に沿って回答をさせていただきます。

以上で本日の案件が終了いたしました。事務局から報告をお願いいたします。

森長総務課長

6月19日に団体から、横浜市の中学校夜間学級の教育条件の抜本的改善及び来年度の予算充実を求める要望書が提出されました。この要望書につきましては、事務局で対応を調整の上、教育委員会で審議が必要な場合は、次回以降にお諮りしたいと思います。委員の皆様は、内容の御確認をよろしくお願いいたします。

次回の教育委員会臨時会は7月19日金曜日の午前10時から開催する予定です。また、次回の教育委員会定例会は、8月2日金曜日の午後1時から開催する予定です。

なお、8月2日の会議の議題については調整中ですが、教科書採択につきましてはこの日を予定しております。前回の6月7日の教育委員会定例会において報告したとおり、会議を傍聴いただける方を事前抽選いたします。事前抽選の申し込みについては、6月28日金曜日から来週の7月9日火曜日まで、インターネット又は郵送により受付を行っております。詳細についてはホームページを御確認ください。

また、会場に入れなかった傍聴希望者の皆様につきましては、インターネット配信により審議の様子を御覧いただけるよう予定しております。以上でございます。

下田教育長

皆様、よろしいでしょうか。次回の教育委員会臨時会は、7月19日金曜日の午前10時から開催する予定です。別途、通知しますので御確認ください。

以上をもちまして、本日の教育委員会定例会を閉会いたします。

[閉会時刻：午前11時3分]